



## 「自助・共助・公助」を考える

先般、菅新総理の就任談話中で、「自助・共助・公助」なる言葉が強調されていました。この言葉が広く知られるきっかけとなったのは、1995年の阪神・淡路大震災だったと言われています。

「自助」…自らの困難な問題に対しては、まずは自分自身が考えて行動し問題の解決を図るよう努める。

「共助」…近隣の方々、地域や家族でお互いに助け合うことで豊かな暮らしを目指す。

「公助」…自分や地域で解決できない課題は、行政・公的機関の各種サービスを活用し、課題の解決を図る。

災害時に用いられるとわかりやすい言葉なのでしょうが、この度の菅総理のスローガンとなった時に、これを政治の責任逃れなどと批判的にとらえる声も多く上がっているようです。私にはこれからの少子高齢化社会環境にあって、このスローガンをきっかけにして「**どういう社会（日本）を望むのか**」という問い直しに、それぞれがしっかりと向き合うことが大事と感じ、私自身は事例ごとに比重は変わってもよいと、素直に受け止めることができましたし、改めて言われてみると**当たり前**のことばかりなのです。

例えば私が小さい頃は、雪が降れば道路まで各家庭で雪はきをしなくてはなりません。家から道路まで雪片づけをしていれば近所の方々と一緒になり、周辺の道路も皆きれいになりました。さすがに広大な道路をすべて除雪するのは無理ですので、町のブルドーザーが来て一掃してくれます。

こんな役割が自然に、常識として身に付いていたと思います。

今、世界中がコロナ禍の真ただ中です。これに例えれば、

**自助**…手洗・マスク・三密回避など、それぞれが守ること。

**共助**…イベントなどの人数制限・夜営業の時間短縮・海外旅行などの自粛。

**公助**…感染と経済を両立するために、国が援助する給付金・補助金など。

この三位一体となって対応しています。

近年では、自分は何も解決策を見出せずに公的機関へ要求ばかりすることが目立ってきたように思えます。特に共助にいたっては、近隣の方々とコミュニケーションが薄くなり、お互いに助け合うといったことが少なくなってきたのではないのでしょうか。

菅総理は難しいことではなく、**その当たり前のように当たり前が出来ていた頃の日本人の心を取り戻して**、日本再生をしていこうとしているのではないかと、私にはそんな気がして好意的に受け入れたところです。

かつて、米国のケネディ大統領は就任式で、「**国があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何を成すことができるのかを聞いて欲しい**」と歴史に残るスピーチを發しました。他にも「**神は自ら助くる者を助く**」という諺（ことわざ）もあったような気がします。



＜山形新聞掲載より＞